

☑ 帰国への準備

《帰国が決まる前にしておきたいこと》

◆情報収集

本誌やインターネットを活用し、どのような学校があるか広く見て、子どもに合う学校を考えておく。

- ・東京、大阪、名古屋で行われる海外子女教育振興財団(JOES)主催の「帰国生のための学校説明会・相談会」(例年7月下旬)は、帰国生受け入れを積極的に行っている小学校から大学まで、私立だけでなく国公立の学校も一堂に会し、担当の先生から直接話を聞くことができる貴重な機会である。また、一部の府県市の教育委員会にも個別に相談することができる。2021年度、2022年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインのみの開催。
- ・例年夏休みの時期に、私立中学校高等学校連合会や塾が主催する合同説明会が行われる。一般入試対象ではあるが多数の学校についての情報を集めることができ、個別相談ができる場合もある。
- ・留意点については、本誌次章以降の「国立私立の学校」、「公立小中学校」、「近畿2府4県公立高校」、また大学については「大学入試基礎知識」の項を参照。

◆学校見学

気になる学校がいくつか挙げれば、子どもと一緒に説明会やオープンスクールに参加する。あるいは予約をしたうえで学期期間中に学校見学をさせてもらうと、普段の姿を見ることができる。また運動会や文化祭といった学校行事では、子どもたちだけでなく保護者のようすもわかる。学校の雰囲気を感じ、「この学校に行きたい」と本人が感じることは非常に重要。学校を知るためには、直接問い合わせることがベスト。コロナ禍でオンラインや個別相談で対応している学校が多いので、問い合わせをすれば海外在住であっても国内と同じ対応を受けられる可能性が高い。

◆学力を把握する

海外での学力が日本でどのくらい通用するかを知っておくことは、学校選択の重要なポイントとなる。

- ・塾やインターネットを利用して、海外で受けられる模擬試験を受けておく。
- ・気になる学校の一般入試の過去問題を入手し、どのくらいの学力を必要とするか確かめる。
- ・社会や理科などに未履修分野がある場合は、志望校に相談しておく、どのくらいの準備が必要か把握できる。

◆やっておくとよいこと

- ・海外での体験を作文にまとめてみる。振り返ることで、海外で得たものの大きさを実感でき、自己肯定にもつながる。帰国入試では作文や小論文や面接を課されることも多く、その練習にもなる。
- ・英検やTOEFLなどの検定試験を評価する入試が増えている。海外受験が制限される中、取得しておくに役に立つことが多い。
- ・入試が帰国生向けの特別な試験であっても、入学・編入後は、一般入試で入ってきた国内の生徒と一緒に学習することを考え、日本のカリキュラムによる学習を少しずつでも続けていく努力は必要である。

◆海外での生活を大切に

帰国後に向けての準備は必要だが、子どもにとっては「今」が大事ということを理解し、現地での生活を充実させる。友だちづきあいなど、海外でしか体験できないことを大切に、海外生活を思い出深いものになりたい。

- ・スポーツや芸術などの特技も将来にわたっての自信につながり、また、帰国後に友だち作りのきっかけともなる。
- ・海外の学校での学習にしっかり取り組む。環境の変化や言葉の壁を乗り越えて頑張ったことは、大きな自信となる。各学年での成績表や課外活動・ボランティアなどの証明書は、帰国入試の出願書類に必要な場合もあるので保管しておく。また書類審査の際、海外の学校での成績を重視することが多い。

《帰国が決まったら》

◆入学・編入学の準備

帰国予定を確認し、学校に必要な準備について問い合わせる。

帰国入試・編入学試験のある場合

- ・募集要項や願書を取り寄せ、提出書類を作成する。在籍証明書や成績証明書などが必要な場合は、在籍する学校に早めに作成を依頼しておく。保護者の勤務先からの海外勤務証明書や健康診断書などが必要なこともある。

- ・帰国生としての条件(滞在年数、帰国してからの期間など)を満たしているかを確認する。
- ・編入の際、「海外から直接」でないと受験できない学校がある。帰国後住民登録をすると、義務教育期間中は校区の公立校に学籍が発生し(就学義務)、帰国生として認められない場合もあるので、出願条件についてよく調べておく。
- ・通学時間、通学区域に制限のある学校もあるので、注意して帰国時期や住まいを決める。校風、授業の進捗についていけるか、卒業後の進路、部活動、寮生活など、実際の学校生活に関わる点についても考慮する。
- ・入試という「入口」よりも、子どもには入学後の生活の方が大きく関わることに留意し、口コミや偏差値等の情報だけでなく、本人の希望や視点を大切にして学校を選ぶ。
- ・コロナ禍でのオンライン授業期間等、帰国生としての条件にあうかどうか、個別に問い合わせる。

◆入試のための帰国

- ・入試を受けるために一時帰国または本帰国するときは、預け入れ荷物が行方不明になる可能性も考慮して、**必要書類、面接用の服**など試験当日に必要なものは必ず手荷物とする。
- ・入試、面接時の服装は、親子とも、スーツや制服タイプのいわゆる「受験スタイル」にこだわる必要はないが、きちんとしたものだと安心できる。昼食の用意や、体育の試験がある場合は動きやすい服装など、学校から指示がある。
- ・時差調整や指示される自宅待機日数も考慮して、ゆとりのある日程でフライトや宿泊先を手配する。

◆学校とのコミュニケーションを大切に

子どもにとって日本という「異国」の学校ではとまどうことも当然と考え、親として、子どもの気持ちをしっかり受け止めるとともに、入学／編入先の学校とは、円滑なコミュニケーションを心がける。先生に子どもについて相談する際の助けとして、海外子女教育振興財団(JOES)出版の「海外子女教育手帳」がある(HPからも購入可能)。日英両言語による自己紹介ノートで、英文の在学・成績証明書フォームも含まれるので、必要に応じて利用するとよい。

《書類の英語表記》

入学・編入に際して、次のような書類が必要なことがある(国や学校により名称はさまざま)。

※大学の帰国入試の際など、帰国して何年か後になって必要になることもあるので、**どの書類も必ず多めに準備する。**

帰国後に海外から取り寄せるのは、かなり困難な場合が多い。

- ・現地校やインター校に作成を依頼するときは、用紙に学校の名前と所在地、子どもの名前、校長の日付入りサインを入れてもらう。
- ・日本の書式に慣れていない学校もあるので、できるだけ早く依頼して、書き方についてよく打ち合わせの上作成してもらう。封をする前に、記載方法に誤りがないか中身を確認させてもらうとよい。
- ・スポーツや芸術分野で特技がある場合は、その講師にも推薦状を依頼するとよい。

在籍証明書*	Certificate of Enrollment、 Certificate of Existence		
成績証明書**	Official Transcript、 Certified Copy of Academic Record		
通知票	School Record、 Progress Report、 Report Card	在中	enclosed
卒業(見込)証明書	Certificate of Graduation (Expected)	開封無効	invalid if opened
封印	sealed and stamped or signed	推薦状	Official Recommendation Letter

在籍証明書*の文例(決まった文章はない)

This is to certify student's name was enrolled in our school from m / d / y to m / d / y , grades (school years) _____ to _____ .

成績証明書**の発行を校長に依頼する際の文例

Please provide an official transcript of my son/daughter, name , from Grade 7 onward, which is required to apply for admission to school name , Japan. Please seal the envelope with your signature.

《問い合わせ》

◆公立小・中学校への入学・編入について → 各市町村教育委員会(住所が決まっている場合は、直接学区の学校)
 問い合わせ内容によって担当課が異なることもある。聞きたい点をできるだけ具体的に伝える。
 例) 帰国生受け入れ状況、校区、学習面・生活面の相談、必要な手続きや書類等

◆公立高校への入学・編入について → 各府県教育委員会(兵庫県は教育委員会または志望先高校)
 例) 出願までに必要な手続き、帰国生が受けられる入試の種類、条件、編入の時期、通学区、未履修科目について

◆国立・私立の学校(小・中・高・大)への入学・編入について → 各学校
 例)・入学について 帰国生が受けられる入試の種類、必要な準備、通学圏、試験の内容や日程、受け入れ後の体制等
 ・編入について 時期、試験内容、条件(いったん国内の学校に編入してからの受け入れの可否等)

《問い合わせ前にまとめておくポイント》

下の表を参考に、質問事項や子どもの状況をあらかじめまとめておくと、必要な情報が伝わりやすい。

- ・問い合わせ専用のメールアドレスや電話番号を設けている学校もあるので、HPで確認する。
- ・年号は和暦と西暦両方で。

子どもの氏名	性別	年齢	生年月日 平成 年 月 日	滞在国/都市名	在外の形態 親に帯同・留学・出生	
在籍学校名		学年	学校の種別		日本語補習校名	学年
			日本人学校・現地校 インター校(米国式・英国式など) その他()		履修科目	
帰国先住所	帰国時期 年 月	編入・入学希望の時期・学年 年 月から 年生へ編入・入学			海外在住年数	帰国後年数
これまでの海外在住歴および在学歴						
滞在国・都市/在学期間	学校の種別(学年の開始終了月) 学習言語		在学期間	学 年	修学期間	
例) 米国/ロサンゼルス 平成30年8月～令和4年3月 (2018年8月～2022年3月)	現地校(9月～6月)・英語 日本語補習校		平成30年9月～令和4年3月 (2018年9月～2022年3月) 平成30年9月～令和4年3月 (2018年9月～2022年3月)	3rd～6th 小3～6年生	3年6カ月 3年6カ月	
日本語の運用能力(例 学齢相応の教科書がすらすら読めるか、漢字が書けるか、口頭による指示を理解できるか、自分の考えや思いを伝えられるかなど)						
日本の教科の学習(例 「通信添削と塾で、中学受験に向けて準備をしている」「漢字を自学している」など)						
特記事項(例 「現地校編入時に学年を下げている」、語学検定や資格・TOEFL のスコアなど)						
問い合わせたい内容						

関西帰国生親の会かけはし編(2023年度版)